

(仮訳)

日・スリランカ共同声明
東京、2025 年9月 29 日

- 1 石破茂日本国内閣総理大臣は、2025 年9月 27 日から 30 日までの日程で公式訪問中のアヌラ・クマラ・ディサナヤケ・スリランカ民主社会主義共和国大統領との間で、東京において首脳会談を行った。
- 2 双方は、日本とスリランカとの長年の友好関係を想起した上で、両国間の深化・拡大した「包括的パートナーシップ」の枠組みの下、特に安全保障、経済、投資、開発協力等の分野における協力を更に深化・拡大する意思を再確認した。
- 3 石破総理大臣は、IMF プログラムの着実な実施及び債務再編を通じたスリランカ経済の回復軌道を称賛し、日本がスリランカの改革努力を引き続き支援することを改めて表明した。ディサナヤケ大統領は、債権国会合(OCC)共同議長としての日本のリーダーシップに対し、スリランカの債務再編に関する早期署名を可能にしたとして、本年3月に日本が OCC メンバー国の中で初となるスリランカとの債務再編に関する二国間合意を締結した点を含め、謝意を表明した。双方は、IMF プログラム下での各種改革の着実な実施及び債務再編プロセスの早期完了が、スリランカ経済への投資家の信頼を更に回復させることを認識した。双方は、債務持続可能性及び透明性を考慮した対外債務の重要性を確認した。
- 4 ディサナヤケ大統領は、2024 年に他の債権国に先駆けて再開された 11 件の既存の円借款事業を始めとする日本の継続的な支援に謝意を表明した。双方は、スリランカにおける連結性の強化及び観光促進に寄与するバンダラナイケ国際空港改善事業(フェーズ2)の再入札を歓迎し、早期完成に向けて関連プロセスを加速化することへのコミットメントを確認した。さらに、双方は、送配電網の整備・効率化や地上テレビ放送のデジタル化を始めとする既存の円借款事業の着実な実施の重要性を確認した。
- 5 双方は、零細酪農家の生計向上を通じたスリランカの包摂的な経済開発の促進を目的とした、日本の無償資金協力「酪農セクター生産性向上計画」に関する書簡の署名・交換が行われたことを歓迎した。双方は、スリランカの持続可能な経済開発に向け、コロンボ等の主要都市における都市交通を効率化するためのインフラ整備及び輸送に関する解決策を策定する重要性を確認した。

- 6 双方は、「輸出志向型産業回廊構築に向けたロードマップ」に基づき、日本からの投資によって輸出を強化・拡大する方策について、協議を進めることで一致した。この関連で、双方は、スリランカの産業及び経済を強化する可能性を共同で模索するための政府間経済政策対話を再開することで一致した。双方は、貿易・投資分野に大きな機会が存在することを認識し、透明性、予見可能性、非差別的待遇を始めとするスリランカのビジネス環境の更なる改善の重要性を確認した。この点に関し、双方は、四半期毎に開催される「ビジネス環境に関する日スリランカ委員会」が、本年8月に発足したことを歓迎した。
- 7 ディサナヤケ大統領は、現政権選出後のスリランカにおける投資・ビジネス環境の質的变化について共有した。同大統領は、日本企業に対し、スリランカの高い可能性を秘める多くの分野において利用可能な機会を探索するとともに投資するよう呼びかけた。
- 8 双方は、インド洋地域の平和と安定を確保する上で、両国間の防衛・安全保障協力の深化並びにスリランカの安全保障及び抑止力の向上が重要であることを確認した。この観点から、双方は、今次訪問中に決定されたスリランカに対する初の政府安全保障能力強化支援（OSA）を通じた、警戒監視・災害対処能力強化のための最新の日本製無人航空機（UAV）の供与を歓迎した。
- 9 双方は、海上自衛隊艦艇の寄港や、海上自衛隊とスリランカ海軍との共同訓練を通じた両国間の防衛協力の着実な進展も歓迎した。双方は、本年5月に中谷元防衛大臣がスリランカを訪問し、第2回日・スリランカ防衛当局間対話の開催を決定したことは、この分野における両国の協力の更なる推進へのコミットメントを強調するものであると確認した。
- 10 石破総理大臣は、日本がスリランカの汚職撲滅に向けた取組に引き続き協力する意思を表明した。双方は、スリランカにおける紛争の影響を受けた地域社会、特に北部州及び東部州の社会・経済課題に対処することの重要性を確認した。石破総理大臣は、国民和解と社会・経済開発が密接に相互に関連していることを踏まえ、北部州及び東部州の開発のための協力を継続することへのコミットメントを再確認した。
- 11 ディサナヤケ大統領は、スリランカの地雷除去活動における主要なドナー国である日本による継続的な協力を謝意を表明した。また、日本による地雷除去活動への協力が「地雷の影響のないスリランカ」という全体目標に大きく貢献し、国民和解に肯定的な影響を及ぼすとともに、スリランカの北部州及び東部州における地域社会のエンパワーメントや紛争後の開発に貢献しているこ

とを評価した。

- 12 双方は、熟練した人材を始めとする人的交流を促進する方策について議論し、言語教育、文化、スポーツ等の分野における両国間の結びつきを更に強化することで一致した。双方は、深まる文化面の相互理解を踏まえ、スリランカにおける日本語教育を更に推進することの重要性で一致し、この点に関する取組を両政府が推進する意思を再確認した。
- 13 双方は、双方の関心事である地域・国際情勢について意見交換を行った。双方は、日本の「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」ビジョンを通じた地域への日本の更なる関与の重要性を改めて表明の上、ルールに基づく国際秩序を始めとする双方の関心事について引き続き協力する必要性を再確認した。また、双方は多国間主義及び民主主義への支持を改めて表明した。
- 14 双方は、海洋国家として、平和、安定、安全並びに航行及び上空飛行の自由を維持することの重要性を再確認し、1982 年の国連海洋法条約(UNCLOS)に反映された国際法の尊重及び遵守が安定した平和な国際海洋秩序を維持するために重要であることを強調した。
- 15 双方は、政府間交渉への積極的関与を通じて、国連安全保障理事会の早期改革に向けた協力を継続することを改めて表明した。石破総理大臣は、日本の常任理事国入りへのスリランカの継続的な支持に謝意を表明した。
- 16 双方は、国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石である核兵器不拡散条約(NPT)を維持・強化することの重要性を再確認し、この分野で引き続き協力していく旨を共に決意している。この文脈で、石破総理大臣は特に、2023 年のスリランカによる包括的核実験禁止条約(CTBT)の批准及び IAEA 追加議定書の重要性に言及した。
- 17 石破総理大臣は、2025 年日本国際博覧会(大阪・関西万博)におけるスリランカの積極的な参加及びスリランカ・ナショナル・デーの開会式へのディサナヤケ大統領の出席を歓迎した。また、双方は、今次訪問の重要な部分を成す大阪及び東京で開催される二つのハイレベルのビジネスイベントを始めとして、両国間の経済協力の強化に重点を置くことを認識した。
- 18 ディサナヤケ大統領は、今次訪問中に受けた温かい歓迎とおもてなしに対し、石破総理大臣及び日本人々への心からの謝意を表明した。
